

# 第6学年2組 社会科学習指導案

授業日 平成27年9月30日(水) 授業B  
 授業者 附属新潟小学校 教諭 大矢 和憲  
 会場 6年2組教室

## 1 単元名 江戸幕府の終わりと新しい国づくりー幕末・明治ー

### 2 本単元の価値

本単元は、小学校学習指導要領解説社会編6学年の内容(1)のキに準拠して設定したものである。

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。  
 キ 黒船の来航、明治維新、文明開化などについて調べ、廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い、欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること。

小学校の歴史学習では、それぞれの時代にどのような課題があり、どのように課題を解決し、その結果社会や国がどのように発展したかということを中心に学ぶことが重要である。

幕末から明治は、我が国が約700年間続いた封建的な武家社会、地方分権国家から、近代的な中央集権国家として発展した、歴史上大変重要な時期である。幕末、黒船の来航を始め、我が国は国内外に様々な問題を抱えていた。そこで、維新の志士たちが中心となり、外国に負けない強い国家をつくりあげるための諸改革が行われ、欧米の文化を取り入れつつ近代的な中央集権国家として急成長を遂げたことをとらえさせたい。

しかし、子どもにとっては学習する出来事や人物が多いため、当時の出来事や人物の働きを結び付けて理解することが難しく、事実の断片的な理解に陥りやすい。

黒船の来航から、明治維新、文明開化、近代化までの出来事や人物の働きを結び付けて、我が国の発展を理解するためには、明治維新の意味をとらえさせることが必要である。明治維新の意味とは、「当時我が国は国内外に様々な問題を抱えていて、危機的な状況にあった。そこで、天皇を中心として国家を統一し、外国に負けない強い国をつくらうとした」ということである。

そこで、本単元では、維新の志士たちが、徳川慶喜に大政奉還をさせ、王政復古の大号令、五箇条の御誓文によって、天皇を中心とした明治政府をつくったことを中心に取り上げ、明治維新の意味を追究させる。具体的には、当時の国内外の状況から我が国がどのような課題に直面し、維新の志士たちが、どのような目的で天皇を中心とした明治政府をつくったのかを明らかにしていく学習を設定する。そして、当時の課題、事象の目的、結果を総合して、明治維新の意味をとらえる子どもを目指す。

こうして明治維新の意味をとらえることで、その後の諸改革や近代化の事実、人物の働きなどを結び付けて理解していくことができる単元である。

### 3 本単元で目指す姿と「中核的な知識や技能」「学びをつなぐ力」

#### (1) 目指す姿

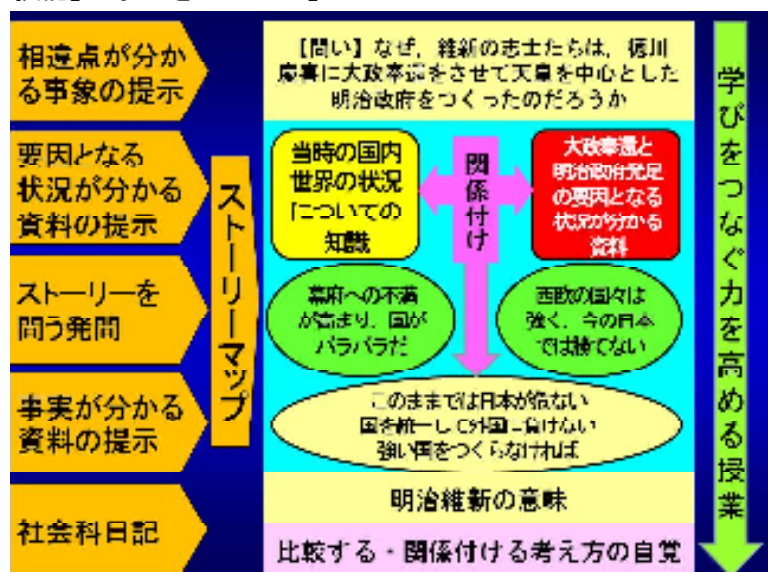
「その頃の日本は、国内外に様々な問題を抱えていて危機的な状況にあった。だから、維新の志士たちは、これからの日本のことを考えて、国を統一し、外国に負けない強い国をつくるために天皇を中心とした明治政府をつくった」などと、社会や国家の課題、事象の目的、結果を総合して、明治維新の意味をとらえる子ども。

#### (2) 「中核的な知識や技能」

明治維新の意味

#### (3) 「学びをつなぐ力」

- ① 関係付けるすべを用いて、予想を手掛かりに「対象」を調べ、学習問題の解決につながる情報を収集する力
- ② 比較する・関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、明治維新の意味を考える力



#### 4 指導計画 全12時間 (360) ※別紙単元カード参照

#### 5 指導の構想

子どもは、これまでに、幕末の世界の情勢や、我が国が開国し欧米諸国と不平等な条約を結んだこと、国内では物価が上がり一揆や打ちこわしが起こったことなどを学習している。そして、欧米諸国や国内の状況に不安を感じている(C0)。このような子どもに、次のように働き掛ける。

##### 働き掛け1

**大政奉還図と、五箇条の御誓文絵図、維新の志士の画像を提示し、気付いたこと、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。**

明治維新の意味について追究する学習問題を設定させるために、まず、大政奉還図(資料①)と五箇条の御誓文絵図(資料②)を提示し、気付いたことを問う。子どもは、比較するすべを用いて資料①②の相違点を発表する。

次に、維新の志士たち(坂本龍馬・西郷隆盛・大久保利通・木戸孝允・岩倉具視を中心人物として挙げる)の画像(資料③)を提示し、維新の志士たちが、15代将軍徳川慶喜に政治の実権を朝廷に返還させ(大政奉還)江戸幕府が滅び、天皇を中心とした明治政府をつくったということを説明する。その後、疑問に思ったことを問う。子どもは、「徳川慶喜は、なぜ大政奉還をしたのか」「これまで幕府(武士)による政治が続いたのに、なぜまた天皇を中心とした政府をつくったのか」などと疑問を発表する。

最後に、これからみんなで考えたいことを問う。子どもは、比較するすべや関係付けるすべを用いて、疑問を焦点化し、「維新の志士たちは、なぜ、今まで政治を行ってきた江戸幕府に大政奉還をさせて天皇を中心とした政府をつくったのだろうか」と、明治維新の意味について追究する学習問題を設定する。学習問題を設定した子どもは、既有事項を基に学習問題について予想を始める。予想を発表させ、全体で共有した後、ワークシートに自分の初発の考えを記述させる。この場面で学習問題に納得し、学習問題に正対する初発の自分の考えを記述できた子どもを問いをもった姿とする。

##### 働き掛け2

**大政奉還と明治政府発足の要因となる状況が分かる資料(「対象」)を提示し、調べて分かったことを付箋紙に書かせる。**

根拠となる事実を明らかにして学習問題について考えさせるために、「どのようなことが分かれば考えられそうか」と問う。子どもは、「維新の志士たちがどのようなことを考えていたのかが分かればいい」「その頃どのようなことがあったのかが分かればいい」などと、学習問題を解決するためには、要因となる状況や維新の志士たちの考えが分かれば考えられそうだと考え、それらが分かる資料を求める。そのような子どもに、**大政奉還と明治政府発足の要因となる状況が分かる資料(「対象」※資料④)**を提示し、資料を調べさせ、分かったことを付箋紙に書かせる。子どもは、関係付けるすべを用いて、予想を手掛かりに「対象」を調べ、以下のような学習問題の解決につながる情報を付箋紙に記述する(「学びをつなぐ力」①)。

- 当時日本国内は、開国して不平等な条約を結んだことから物価が上昇したこと。
- 日本各地で一揆や打ちこわしが増えたこと。
- 幕府を倒そうと考えていた藩(倒幕派)と守ろうとしていた藩(佐幕派)とがあったこと。
- 西郷隆盛らの薩摩藩と木戸孝允の長州藩は、ともに外国と戦って負けたこと。
- 坂本龍馬が船中八策で外国と平等になることを考えていたこと
- アメリカやヨーロッパの国々が、アジア諸国を支配していたこと など

##### 働き掛け3

**小グループに「ストーリーマップ」を配付し、学習問題についてのストーリーを問う。**

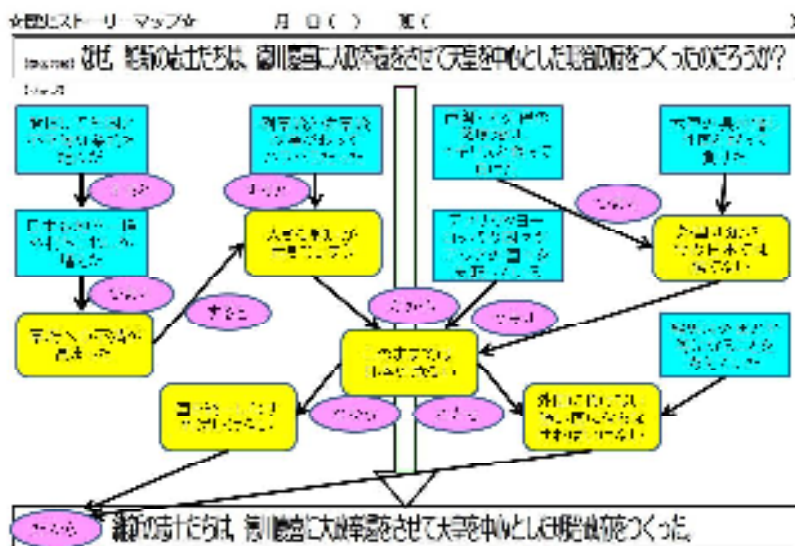
複数の情報を結び付けて、明治維新の意味を考えることができるようにするために、まず、小グループにストーリーマップ(思考の可視化と自覚化を促すための補助教材)を配付し、学習問題についてのストーリーを問う。

ストーリーマップには、結末として「維新の志士たちは、江戸幕府に大政奉還をさせて天皇を中心とした明治政府をつくった」と示しておく。ストーリーを問うことで、子どもは、比較する・関係付けるすべを用いて、付箋紙に書いた情報(当時の国内の状況や、外国との関係、維新の志士たちの考えなど)を整理したり結び付けたりする。そして、「このままでは日本は危ない」「国を統一して、外国に負けない強い国にならなければいけない」などと、当時の国家としての課題や維新の志士たちの目的(課題解決に必要な情報)を明らかにしていく(「学びをつなぐ力」②)。

次に、学習問題の結論を問い、学級全体で話し合わせる。子どもはそれぞれのグループで話し合ったストーリーを基に、補ったり、妥当かどうか判断したりしながら、当時の国内外の課題と維新の志士たちの目的、明治政府の樹立という結果を結び付けて、明治維新の意味を考える。

そして、「その頃の日本は、国内外に様々な問題を抱えていて危機的な状況にあった。だから、維新の志士たちは、国を統一し、外国に負けない強い国をつくるために、徳川慶喜に大政奉還をさせて天皇を中心とした明治政府をつくったのではないかと仮説を立てる。

しかし、子どもはあくまでも自分たちの考えであるため、本当かどうかを確かめたくなる。



#### 働き掛け4

大政奉還上奏文・五箇条の御誓文の資料を提示し、学習のまとめを記述させる。

子どもが考えた結論の妥当性を確かめさせるために、大政奉還上奏文と五箇条の御誓文の資料(資料⑤)を提示する。子どもは、資料を調べ、自分たちが考えた結論の妥当性を確かめる。その後、学習のまとめとして、分かったこと・考えたこと・思ったことをワークシートに記述させる。子どもは関係付けるすべを用いて、自分たちが考えた結論と資料から分かった事実とを総合して再構成し、「その頃の日本は、国内外に様々な問題を抱えていて危機的な状況にあった。だから、維新の志士たちは、これからの日本のことを考えて、国を統一し、外国に負けない強い国をつくるために天皇を中心とした明治政府をつくったんだな」などと、**社会や国家の課題、事象の目的、結果を総合して、明治維新の意味をとらえる子ども**になる。

#### 「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け

二つのふり返りの観点を示し、「スーパー社会科日記」を書かせる。

子どもは一連の学習過程において「学びをつなぐ力」を発揮しているが、無自覚であることが多い。そこで、「学びをつなぐ力」の自覚を促すために、日常的に「社会科日記」(宿題)を書かせていく。ここではふり返りの観点として、①「どのように何を学んだのか」自分の学習過程と、②考え方のコツを書くように指導する。①②の観点でふり返らせることで、子どもは、比べて・つなげて・まとめてなどと、自分がどのように考えてどのようなことが分かったのかを説明する。この姿が「学びをつなぐ力」を自覚した姿(Cn)である。

### 6 本時の構想 (本時 4/12時間)

#### (1) ねらい

比較するすべや関係付けるすべを用いて、当時の社会や国家の課題、事象の目的、結果を結び付けて、明治維新の意味を考えることができる。また、学習で発揮した「学びをつなぐ力」の有用性を自覚することができる。

#### (2) 主張(展開) 3Q (45分)

このような子どもに (C0)

- 幕末の世界の情勢として、欧米諸国が強く、アジアの国々が領土を奪われたり、植民地にされたりしたことを知っている。
- 我が国が開国し、欧米諸国と不平等な条約を結んだことを知っている。
- 国内では物価が上がり一揆や打ちこわしが起こったことなどを知っている。
- 欧米諸国や国内の状況に不安を感じている。
- 一学期の学習で、飛鳥・奈良時代に天皇を中心とした国づくりをした事実とその意味を理解している。

#### このように働き掛けると【働き掛け1】

資料①②③を提示し、気付いたこと、疑問に思うこと、これからみんなで考えたいことを問う。

- 説明「これまで江戸時代の学習をしてきましたね。江戸時代は265年間という長い間続いたんでしたね」
- ・指示「今日は2つの絵を持ってきました。これからみんなに見せるので、まずは気付いたことを発表しましょう」
  - ※資料①：「大政奉還図」と、資料②：「五箇条の御誓文絵図」を提示する。
  - ※子どもが気付いたことを資料に書き込む。
- ・説明「そう、左のこの人は、江戸幕府の15代将軍徳川慶喜。右のこの人は明治天皇です」
- ・説明「実は、この2つの絵に関係する人たちが、この維新の志士と呼ばれる人たちです」
  - ※資料③：「維新の志士たちの画像」を提示し、名前を確認する。
- 指示「これから重要なことを伝えるので、テレビの画面を見ましょう」
- ・説明「この維新の志士たちが、15代将軍徳川慶喜に政治の実権を朝廷に返還する大政奉還をさせて、天皇を中心とした明治政府をつくりました。こうして、江戸時代と鎌倉時代から約700年間続いた武士による政治が終わり、明治時代になりました」
  - ※プレゼンテーションで説明する。
- ・発問「疑問に思ったことはありませんか。発表しましょう」
  - ※ 子どもの疑問を黒板に書く。
  - ※ 補助発問：「どうしてそう思ったの」
- 発問「いろいろな疑問が出たけれど、みんなはこれからどんなことを考えたいですか。どんな学習問題ができそうですか」「これからみんなで考える学習問題はこれでいいですか」
  - ※ 学習問題に納得できるか挙手させる。
  - ※ 学習問題を黒板に書き、ワークシートを配付する。
- ・指示「みんなの学習問題を書きましょう」
- 発問「この学習問題についてどんな予想ができるかな。予想を発表しましょう」
  - ※ 子どもの予想を黒板に書く。
- ・指示「今の自分の考えを、ワークシートの自分の考え①に書きましょう」

### このようになり (G1)

- 大政奉還と明治政府樹立の事実から、比較するすべや関係付けるすべを用いて、疑問を焦点化し、明治維新の意味を追究する学習問題を設定する。
- 資料①②から気付いたことを発表する。
    - ・左の絵は、武士が集まっている。奥にいるのは将軍かな。
    - ・右の絵は、武士っぽくないからたぶん朝廷だと思う。右にいるのは天皇じゃないかな。
    - ・左の絵は幕府で、右の絵は朝廷だと思う。
    - ・どちらも人を集めて何か重要なことをしているんじゃないかな。
    - ・やっぱり。左の人は15代将軍の徳川慶喜で、右の人は明治天皇か。
  - ・この人知ってる。この人たちのことを維新の志士っていうんだ。
  - ・維新って何だろう。
  - 大政奉還と明治政府の樹立について知り、疑問に思ったことを発表する。
    - ・え～っ！？なんで将軍に政治の実権を朝廷に返させたのか。
    - ・今までは戦いが起きて勝った人が幕府を開いていたのに、戦いは起きなかったのか。
    - ・今まで幕府(武士)による政治が続いたのに、なぜまた天皇を中心とした政府をつくったのか。
    - ・なぜ新しい幕府じゃないのか。
  - これからみんなで考える学習問題を設定する。
    - ◎**維新の志士たちは、なぜ、今まで政治を行ってきた江戸幕府に大政奉還をさせて、天皇を中心とした政府をつくったのだろうか(学習問題)**
    - 学習問題について予想し、初発の考えをワークシートに記述する。
      - ・幕府の政治がメチャクチャで、幕府への不満が高まっていたからじゃないかな。
      - ・幕府の力が弱くなって、国内で戦いが起きそうになったからじゃないかな。
      - ・国がバラバラだったから、国を統一しようとしたんじゃないかな。
      - ・外国に攻め込まれそうになったからじゃないかな。
      - ・飛鳥時代みたいに、日本が危なかったからじゃないかな。

### このように働き掛けると【働き掛け2】

- 大政奉還と明治政府発足の要因となる状況が分かる資料(「対象」)を提示し、調べて分かったことを付箋紙に書かせる。
- 発問「いろいろな予想が出たけれど、みんなは今、どのようなことが分かれば詳しく考えられそうですか。どんな資料があるといいですか」
  - ・説明「このときどのようなことが起きていたかが分かるような資料がほしいんだね」



- ・指示「そう言うと思って、今日はこういう資料をもってきました。資料を調べて分かったことを付箋紙に書きましょう」
- ※ **大政奉還と明治政府発足の要因となる状況が分かる資料（「対象」：資料④）**と、付箋紙を配付する。
- ※ 付箋紙には一枚につき一つのことだけを書くように指示する。

### このようになり (G2)

- 資料を調べ、学習問題の解決につながる情報を付箋紙に書いていく。
  - ・当時日本国内は、開国して不平等な条約を結んだことから物価が上昇した。
  - ・日本各地で一揆や打ちこわしが増えた。
  - ・幕府を倒そうと考えていた藩（倒幕派）と守ろうとしていた藩（佐幕派）とがあった。
  - ・西郷隆盛らの薩摩藩と木戸孝允の長州藩は、ともに外国と戦って負けた。
  - ・坂本龍馬は船中八策で外国と平等になることを考えていた。
  - ・アメリカやヨーロッパの国々がアジア諸国を支配していた。
- ☆つなぐ力①：関係付けるすべを用いて、予想を手掛かりに「対象」を調べ、学習問題の解決につながる情報を収集する力

### ここから本時

#### このように働きかけると【働き掛け3-①】

- 小グループに「ストーリーマップ」を配付し、学習問題についてのストーリーを問う。
- 説明「資料で調べて分かったことを付箋紙に書きましたね。これからどうしたいですか。それはなぜですか」
  - ・発問「付箋紙に書いたことを基にすると、学習問題についてどんなストーリーが考えられそうですか」
  - ・指示「これからこのストーリーマップを各班に配ります。ストーリーの結末は『維新の志士たちは、江戸幕府に大政奉還をさせて天皇を中心とした明治政府をつくった』です。付箋紙を貼りながら班で話し合っ、学習問題についてのストーリーを考えましょう」
  - ※ 各班にストーリーマップとプロッキーを配付する。
  - ※ 補足説明：「似ている内容の付箋紙は、重ねて貼りましょう」  
「比べたりつなげたりしたときは、矢印を書いていきましょう。また、矢印の意味を言葉で書きましょう」  
「話し合っ出てきた考えは、プロッキーでマップに書きましょう」
  - ※ 補助発問：机間巡視をして、「なぜそのように考えたのか」「どのようなことが考えられそうか」「どのようなストーリーができそうか」と問う。
  - ※ 机間巡視をして、日本が危険だということや、国を統一しなければいけない、外国に負けない強い国にしなければいけないなどのこと（課題解決に必要な情報）に気付いていたら、次の働き掛けを行う。

#### このようになり (G3-①)

- 付箋紙に書いた情報を基に、班で学習問題についてのストーリーを考える。
  - ・情報をつなげたりして学習問題の答えを考えられるから、ストーリーマップで考えたい。
  - ・幕府が外国と不平等な条約を結んだから、物の値段が上がって、日本各地で一揆や打ち壊しが増えた。つまり、幕府への不満が高まっていたんだよ。
  - ・幕府を倒そうとしていた藩と、幕府を守ろうとしていた藩があったということは、幕府の政治が乱れて、国内がバラバラだったんだよ。そうすると、国内で大きな戦いが起きてしまうかもしれない。このままでは日本は危ない。だから、国を統一しなければいけない。
  - ・外国の影響もあるんじゃない？長州藩と薩摩藩は、どちらも外国と戦って負けているから、外国と戦っても今の日本じゃ勝てないことが分かった。
  - ・国内がバラバラだから、アジアの国々のように外国に支配されるかも。このままでは日本が危ない。だから、外国に負けない強い国にならなければいけない。
  - ・坂本龍馬は外国と平等になることを考えていたから、やっぱり外国に負けない強い国をつくらうとしたんじゃないかな。
  - ・だから、国を統一して外国に負けない強い国にするために、大政奉還をさせて天皇を中心とした明治政府をつくったんじゃないかな。
- ☆つなぐ力②：比較する・関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、明治維新の意味を考える力

#### このように働きかけると【働き掛け3-②】

学習問題の結論を問い、学級全体で話し合わせる。

- 発問「一体なぜ、維新の志士たちは、徳川慶喜に大政奉還をさせて天皇を中心とした明治政府をつくったのでしょうか」
- ・指示「ここからはみんなで話し合しましょう」
- ・発問「どうしてそう考えた（言える）のですか」
  - ※ 発表された考えを全体のマップに記述する。
  - ※ 補助発問：「～さんは、このことをつなげて考えたのですね」  
「みなさんは～さんの考えに納得ですか」
- ・指示「今日は、学習問題についてのストーリーをみんなで考えてきました。ワークシートの自分の考え②に、自分の言葉で学習問題についてのストーリーを書きましょう」
- ・発問「学習問題は解決できましたか」

### このようになり (G3-②)

- 学級全体で学習問題について話し合い、結論を考える。
  - ・その頃の日本は、国内外に様々な問題を抱えていて危機的な状況にあった。だから国を統一して、外国に負けない強い国をつくらなければいけなかった。それで維新の志士たちは、天皇を中心とした明治政府をつくったのではないか。
  - ・でも、自分たちの考えだから、まだ本当かどうか分からない。確かめたい。
- ☆つなぐ力②：比較する・関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、明治維新の意味を考える力

### 本時ここまで

#### このように働きかけると【働き掛け4】

- 大政奉還上奏文・五箇条の御誓文の資料を提示し、学習のまとめを記述させる。
- 説明「考えを確かめる資料がほしいんだね。そう思うと思って今日はもう一つ資料を用意しました。調べてみましょう」
  - ※ 資料⑤：「大政奉還上奏文・五箇条の御誓文の資料」を配付する。
- ・説明「確かめることはできましたか。それでは、最後に学習のまとめとして、学習問題について分かったこと・考えたこと・思ったことをワークシートに書きましょう」

### このようになり (G4)

- 自分たちが考えた結論の妥当性を確かめ、学習のまとめを記述する。
  - ・その頃の日本は、国内外に様々な問題を抱えていて危機的な状況にあった。だから、維新の志士たちは、これからの日本のことを考えて、国を統一し、外国に負けない強い国をつくるために天皇を中心とした明治政府をつくったことが分かった。今の日本があるのは、維新の志士たちのおかげかも知れないと思った。

#### このように働きかけると【「学びをつなぐ力」の有用性の自覚を促す働き掛け】

- 説明「今日の宿題としてスーパー社会科日記を書いてきましょう」
- ・指示「いつものように、①どのように何を学んだのかと、②考え方のコツを必ず書きましょう」

### このようになる (Gn)

- 学習を振り返り、学習したことと自分の思考を自覚する。
  - ・調べて分かったことを比べて・つなげて・まとめてストーリーを考えて、維新の志士たちが、なぜ天皇を中心とした明治政府をつくったのか（学習問題についての答え）が分かった。

## 7 検証

### (1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、「中核的な知識や技能」を獲得することができたか。
- ② 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を発揮することができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、「学びをつなぐ力」を自覚することができたか。

### (2) 検証の方法

- ① 働き掛け4を受けて、\_\_\_\_\_のように、当時の社会や国家の課題、事象の目的、結果を総合して、明治維新の意味をとらえているかどうかを、ワークシートの記述や「スーパー社会科日記」から検証する。
- ② 働き掛け3を受けて、\_\_\_\_\_のように、関係付けるすべを用いて、学習問題の解決につながる複数の情報を結び付け、明治維新の意味を考えることができたかどうかを、発言やストーリーマップ、ワークシートの記述から検証する。
- ③ 「学びをつなぐ力」の自覚を促す働き掛けを受けて、想定した「学びをつなぐ力」を自覚しているかどうかを「スーパー社会科日記」の記述から検証する。

